

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2019年11月12日
【四半期会計期間】	第61期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	オカダアイオン株式会社
【英訳名】	OKADA AIYON CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡田 祐司
【本店の所在の場所】	大阪市港区海岸通4丁目1番18号
【電話番号】	(06)6576-1281
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 前西 信男
【最寄りの連絡場所】	大阪市港区海岸通4丁目1番18号
【電話番号】	(06)6576-1281
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 前西 信男
【縦覧に供する場所】	オカダアイオン株式会社 東京本店 （東京都板橋区新河岸2丁目8番25号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第2四半期 連結累計期間	第61期 第2四半期 連結累計期間	第60期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	8,773,386	9,296,750	17,866,495
経常利益 (千円)	917,737	892,140	1,560,370
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	573,368	554,625	1,000,803
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	617,965	516,815	982,057
純資産額 (千円)	9,922,321	10,593,878	10,287,732
総資産額 (千円)	19,791,815	20,723,959	20,614,818
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	70.65	68.22	123.26
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	69.97	67.65	122.11
自己資本比率 (%)	49.8	50.8	49.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	49,061	809,262	127,783
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	63,620	334,627	400,657
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	282,992	52,142	267,949
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,181,559	3,327,826	2,909,125

回次	第60期 第2四半期 連結会計期間	第61期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	38.05	39.02

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結累計期間における、各報告セグメントに係る主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

<国内>

主要な関係会社の異動はありません。

<海外>

当第2四半期連結会計期間より、新たに設立したOkada Europe B.V.(オランダ)を連結の範囲に含めております。

<南星>

当社の連結子会社である株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社の3社が、2019年4月1日付で株式会社南星機械を存続会社とした吸収合併をしたため、第1四半期連結会計期間より株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社は連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くものの、個人消費は緩やかな持ち直しにとどまり、鉱工業生産は、グローバルな需要減退による輸出の減少などから弱含みの動きとなりました。また、世界経済は、米中通商問題や英国EU離脱問題等を背景に減速傾向が続き、先行き不透明感を一層強める状況となりました。

このような環境のもとで当社グループは、主力製品の圧砕機、油圧ブレーカ等の解体用アタッチメント、林業機械、環境関連機器等の販売に注力いたしました結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高9,296,750千円（前年同期比6.0%増）、営業利益881,673千円（前年同期比0.8%減）、経常利益892,140千円（前年同期比2.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益554,625千円（前年同期比3.3%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

国内セグメントは、売上高6,246,555千円（前年同期比8.9%増）となりました。機種別には、主力の圧砕機は第1四半期の納期ずれが解消するとともに堅調な再開発・建替需要を背景に受注状況も順調に推移しており、売上高は3,123,044千円（前年同期比2.0%増）、環境関連機器は大型木材破砕機等が順調に納入できた結果、売上高は737,187千円（前年同期比4.4%増）、油圧ブレーカは大型機種の売上寄与もあり売上高は459,354千円（前年同期比15.9%増）となりました。また、アフタービジネスについては、原材料売上高は683,260千円（前年同期比17.8%増）、修理売上高は383,936千円（前年同期比2.4%増）となりました。その結果、セグメント利益は645,877千円（前年同期比22.7%増）となりました。

海外セグメントは、売上高1,676,507千円（前年同期比3.0%減）となりました。主力地域の北米では、景気減速による価格競争で苦戦したものの新規開拓や、南部のパイプライン工事関連等の需要取り込みにより増収を確保し、現地法人化を睨む欧州でも順調に販売網を拡大する等、引続き、米欧での売上は増加いたしました。アジア地域では一部貿易摩擦や競合他社との価格競争の影響もあり大幅な売上減少となりました。その結果、セグメント利益も211,105千円（前年同期比32.4%減）となりました。

南星セグメントは、売上高1,373,687千円（前年同期比5.0%増）となりました。主力のグラブブル・ウインチの新型モデルの投入や、機会損失を抑えるための計画生産導入等の施策も行いましたが施策の浸透が遅れ、売上高は微増にとどまりました。セグメント利益は、当初からの予定範囲内ではありますが人件費等の経費増加要因を売上増でカバーする事ができず45,412千円（前年同期比41.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、20,723,959千円（前連結会計年度末20,614,818千円）となり109,140千円増加しました。受取手形及び売掛金が725,874千円減少しましたが、現金及び預金が418,692千円、商品及び製品が173,442千円、原材料及び貯蔵品が147,606千円、建設仮勘定が98,543千円それぞれ増加したことが主な要因です。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、10,130,081千円（前連結会計年度末10,327,086千円）となり197,004千円減少しました。長期借入金が149,500千円増加しましたが、支払手形及び買掛金が266,633千円流動負債のその他が201,258千円それぞれ減少したことが主な要因です。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、10,593,878千円（前連結会計年度末10,287,732千円）となり306,145千円増加しました。剰余金処分として配当の支払219,404千円がありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益554,625千円を計上したことが主な要因です。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、3,327,826千円（前年同期は3,181,559千円）となりました。

各活動別のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は809,262千円（前年同期は49,061千円の支出）となりました。これは主に、たな卸資産の増加額440,287千円、仕入債務の減少額269,378千円がありました。税金等調整前四半期純利益892,140千円、売上債権の減少額723,782千円が計上されたことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果使用した資金は334,627千円（前年同期は63,620千円の収入）となりました。これは主に、有形固定資産の売却による収入75,554千円がありました。有形固定資産の取得による支出369,528千円が計上されたことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果使用した資金は52,142千円（前年同期は282,992千円の支出）となりました。これは主に、長期借入れによる収入200,000千円、短期借入金の純増加額98,465千円がありました。配当金の支払額219,380千円、長期借入金の返済による支出121,900千円が計上されたことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、84,430千円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完了したものは次の通りであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	資金調達方法	完了年月	投資金額 (千円)
オカダアイオン(株)	本社 (大阪市港区)	国内	組立修理設備	自己資金	2019年5月	161,459

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,378,700	8,378,700	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株で あります。
計	8,378,700	8,378,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	8,378,700	-	2,221,123	-	2,171,688

(5)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	608	7.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	407	5.00
岡田 勝彦	大阪市城東区	369	4.54
岡田 眞一郎	大阪府和泉市	348	4.27
極東開発工業株式会社	兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号	300	3.68
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	242	2.98
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	220	2.70
株式会社南星	熊本県菊池市泗水町住吉3890番10号	200	2.45
株式会社テイサク	名古屋市熱田区四番1丁目15番6号	185	2.27
株式会社池崎鉄工所	大阪府岸和田市内畑町2115	180	2.21
計	-	3,061	37.63

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 608千株
 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 407千株

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 245,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,131,300	81,313	-
単元未満株式	普通株式 2,100	-	-
発行済株式総数	8,378,700	-	-
総株主の議決権	-	81,313	-

(注) 完全議決権株式(その他)には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。なお、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれておりません。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
オカダアイオン(株)	大阪市港区海岸通 4丁目1番18号	245,300	-	245,300	2.92
計	-	245,300	-	245,300	2.92

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,936,461	3,355,153
受取手形及び売掛金	2 5,346,222	4,620,348
商品及び製品	3,144,305	3,317,748
仕掛品	191,104	273,389
原材料及び貯蔵品	2,408,664	2,556,270
その他	429,947	275,176
貸倒引当金	12,142	10,366
流動資産合計	14,444,563	14,387,721
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,043,005	2,139,748
機械装置及び運搬具(純額)	666,600	652,919
土地	1,899,843	1,899,765
建設仮勘定	374,223	472,766
その他(純額)	75,588	76,692
有形固定資産合計	5,059,262	5,241,893
無形固定資産		
のれん	146,628	125,681
その他	226,805	249,813
無形固定資産合計	373,434	375,495
投資その他の資産		
投資有価証券	307,931	275,023
繰延税金資産	344,120	354,057
その他	121,308	121,925
貸倒引当金	35,800	32,156
投資その他の資産合計	737,559	718,849
固定資産合計	6,170,255	6,336,237
資産合計	20,614,818	20,723,959

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,380,741	3,543,107
短期借入金	3,855,500	3,953,965
1年内返済予定の長期借入金	597,800	526,400
未払法人税等	263,723	343,394
賞与引当金	217,732	228,081
その他	783,309	582,050
流動負債合計	9,527,807	9,176,999
固定負債		
長期借入金	275,500	425,000
退職給付に係る負債	473,299	488,364
その他	50,479	39,717
固定負債合計	799,278	953,082
負債合計	10,327,086	10,130,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,221,123	2,221,123
資本剰余金	2,254,881	2,262,397
利益剰余金	5,770,259	6,105,481
自己株式	71,180	69,129
株主資本合計	10,175,083	10,519,872
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,128	36,179
繰延ヘッジ損益	205	4,627
為替換算調整勘定	3,856	14,297
その他の包括利益累計額合計	55,065	17,255
新株予約権	57,582	56,750
純資産合計	10,287,732	10,593,878
負債純資産合計	20,614,818	20,723,959

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	8,773,386	9,296,750
売上原価	6,126,754	6,528,611
売上総利益	2,646,631	2,768,138
販売費及び一般管理費	1,757,966	1,886,465
営業利益	888,665	881,673
営業外収益		
受取利息	1,920	6,119
受取配当金	5,491	5,709
為替差益	9,138	-
固定資産売却益	17,862	6,780
貸倒引当金戻入額	-	5,704
その他	10,322	9,564
営業外収益合計	44,735	33,879
営業外費用		
支払利息	12,808	13,120
債権売却損	2,232	2,597
為替差損	-	3,369
その他	621	4,325
営業外費用合計	15,663	23,412
経常利益	917,737	892,140
税金等調整前四半期純利益	917,737	892,140
法人税等	344,369	337,515
四半期純利益	573,368	554,625
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	573,368	554,625

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	573,368	554,625
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,812	22,948
繰延ヘッジ損益	1,429	4,421
為替換算調整勘定	21,354	10,440
その他の包括利益合計	44,597	37,810
四半期包括利益	617,965	516,815
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	617,965	516,815
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	917,737	892,140
減価償却費	187,710	184,396
のれん償却額	20,946	20,946
株式報酬費用	4,475	4,489
賞与引当金の増減額(は減少)	63,940	10,349
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,809	5,420
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	14,512	15,065
受取利息及び受取配当金	7,411	11,829
支払利息	12,808	13,120
固定資産除売却損益(は益)	17,852	5,495
売上債権の増減額(は増加)	52,597	723,782
たな卸資産の増減額(は増加)	611,068	440,287
仕入債務の増減額(は減少)	69,739	269,378
その他の資産の増減額(は増加)	115,964	132,758
その他の負債の増減額(は減少)	237,185	226,286
その他	-	28
小計	344,049	1,038,323
利息及び配当金の受取額	7,411	11,634
利息の支払額	12,767	13,239
法人税等の支払額	387,754	227,455
営業活動によるキャッシュ・フロー	49,061	809,262
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	40,152	369,528
有形固定資産の売却による収入	109,060	75,554
無形固定資産の取得による支出	4,871	40,884
投資有価証券の取得による支出	174	-
貸付金の回収による収入	148	149
敷金及び保証金の差入による支出	900	900
敷金及び保証金の回収による収入	510	982
投資活動によるキャッシュ・フロー	63,620	334,627

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	196,335	98,465
長期借入れによる収入	275,000	200,000
長期借入金の返済による支出	163,606	121,900
ファイナンス・リース債務の返済による支出	7,732	9,714
配当金の支払額	194,024	219,380
ストックオプションの行使による収入	3,705	387
財務活動によるキャッシュ・フロー	282,992	52,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,982	3,792
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	266,450	418,701
現金及び現金同等物の期首残高	3,448,010	2,909,125
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,181,559	3,327,826

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当社の連結子会社である株式会社南星機械、株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社の3社が、2019年4月1日付で株式会社南星機械を存続会社とした吸収合併をしたため、第1四半期連結会計期間より株式会社南星ウインテック及び暁機工株式会社は連結の範囲から除外しております。

また、当第2四半期連結会計期間より、Okada Europe B.V.(オランダ)を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	11,164千円	24,423千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	421,159千円	- 千円
支払手形	317,505	-

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料	555,093千円	601,699千円
賞与引当金繰入額	121,423	132,650
退職給付費用	20,067	24,896

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	3,208,936千円	3,355,153千円
預入期間が3か月を超える定期預金	27,377	27,327
現金及び現金同等物	3,181,559	3,327,826

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月20日 定時株主総会	普通株式	194,621	24.0	2018年3月31日	2018年6月21日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	219,404	27.0	2019年3月31日	2019年6月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	南星	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,736,618	1,728,454	1,308,312	8,773,386	-	8,773,386
セグメント間の内部売上高又は 振替高	258,722	490	11,783	270,995	270,995	-
計	5,995,341	1,728,945	1,320,095	9,044,381	270,995	8,773,386
セグメント利益	526,479	312,117	77,164	915,761	27,096	888,665

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額 27,096千円の内訳は、のれんの償却額 20,946千円、セグメント間取引消去 6,149千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内	海外	南星	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,246,555	1,676,507	1,373,687	9,296,750	-	9,296,750
セグメント間の内部売上高又は 振替高	188,764	290	99,660	288,715	288,715	-
計	6,435,319	1,676,797	1,473,348	9,585,466	288,715	9,296,750
セグメント利益	645,877	211,105	45,412	902,395	20,721	881,673

(注)1 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額 20,721千円の内訳は、のれんの償却額 20,946千円、セグメント間取引消去225千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	70円65銭	68円22銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	573,368	554,625
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純利益金額(千円)	573,368	554,625
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,115	8,129
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金 額	69円97銭	67円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	79	68
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかつ た潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変 動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月11日

オカダアイオン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 杉 田 直 樹
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安 田 智 則
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオカダアイオン株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オカダアイオン株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。